

わかばやし一色 いっしき プロフィール



1941年、新潟市に生まれる。

幼いころは画家になりたいと夢中で絵を描いた。工業高校を卒業してNEC（東京）に入社。機械設計の業務に従事するが、美術、造形への憧憬止み難く、4年後に退社。デザインに関する仕事を転々。下積みを経て、1967年、建築家・黒川記章の門をたたく。

時代の旗手の才能を肌で感じながら、建築設計や都市計画を学び、1970年に独立。東京・恵比寿で設計事務所を開く。建築・家具・ディスプレイデザインなど幅広く仕事を手掛け、1976年、地方の時代を予感して四国・高松に拠点を移す。1987年、庵治町に一級建築士事務所「ゼブラクロス」を設立。数々の地方公共施設の設計やローカル鉄道再生の提案などを行う。バブル景気崩壊後、人々の“暮らし”そのものに危機感を覚えて“新しい暮らし”的提案、実践に向け、2000年、庵治町の自宅兼アトリエにショップ「ホピ村」を創設。（のちのホピ村アートランド）その活動はやがて、食や農、教育へと拡大。仕事のパートナーである妻と共に働しながら、ビジョン達成へと、力を注ぐ。

2015年春からは高知県東部、物部川上流域の集落に移り住み、「日本の高齢過疎地における新たなコミュニティ創生」の実践に向け、スタートを切った。

また、暇を見ては絵画やオブジェの創作にいそしむ一方、還暦を過ぎて習い始めた声楽を実地に役立てようと、毎月定例で老人ホームへ出向き懐かしい日本の歌などを歌っている。なお、1998年に開始した自家製・炭焼き釜による竹炭焼きは今もなお健在である。

「ホピ村アートランド」オーナー
一級建築士
コミュニティデザインコンサルタント